

女仙

おく、誠に人倫も稀なる地なるを、猶避逃れて深山に入れり、飲食は木の實などを食せし、只寒氣には堪へがたかりしにや、冬に至れば里に出て、綿入を一ツづ、もらへり、春になり暖氣を得れば脱捨て裸體に成り、一年に一度づ、衣類の爲に里に出しが、近き頃に到りては仙術も追々に成就せしにや、衣類もなくして住けり、山に入りて後、予が球磨に遊びし年まで、凡四十年餘といへり、是も近來は不思議の仙術多く、殊に百歳に餘れるも、行歩健にて飛ぶが如し、九州に此二仙人有り、中國邊にてはたへて無き事なり、京都白川の山中には、白幽先生ありしが、今は若州の山中に移れりといふ、仙術の事もろこしのみに限らず、廣き天下には種々の異人も多かりき、

〔續日本後紀仁明〕嘉祥二年三月庚辰、興福寺大法師等、爲奉賀天皇寶算滿于四十略、中作天人、不捨

芥、天女羅拂石、翻擊御藥、俱來祇候、及浦島子暫昇雲漢、而得長生、吉野女、眇通上天、而來且去、等像、副

之長歌奉獻、其長歌詞曰、中略故事、爾云語來、澄江能淵、爾淵淵、恐瀛淵、誤釣釣、皇世世、之民民、浦島島、子加加、天女女、釣釣、良禮良、比比、來來、天天、紫紫、雲雲、泛泛、引引、天天、片片、時時、爾爾、將將、飛飛、往往、天天、是是、曾曾、此此、乃乃、常常、世世、之之、國國、語語、天天、七七、日日、經經、良良、比比、來來、天天、無無、限限、久久、

命有波波、此島爾爾、許有有、介介、良良、三三、吉吉、野野、爾爾、有有、志志、熊熊、志志、禰禰、天天、女女、來來、通通、天天、其其、後後、蒙蒙、譴譴、天天、毗毗、禮禮、衣衣、著著、天天、飛飛、爾爾、支支、度度、云云、是是、

亦此之島根、乃人爾爾、許有有、度度、云云、下下、略略、

〔萬葉集三雜歌〕仙柘枝歌三首

霰零吉志美、我高嶺乎、險跡草取可、奈和妹手乎、取、

右一首、或云、吉野人、味稻與柘枝、仙媛歌也、但見柘枝傳、無有此歌、

此暮柘之左枝、乃流來者、梁者不打而、不取香聞將有、

右一首、此下無詞、諸本同、

右爾梁打人、乃無有世伐、此間毛有益、柘之枝羽裳、

右一首、若宮年魚麻呂作、